



動動

平成29年 7月3日発行

第70号

北海道ムーブメント教育研究会会報

この会報も第70号となりました。本年、1月に開催した冬季講習会の様子をご報告いたします。年始めの土曜日開催、また、12月の大雪の影響で交通事情が悪いにもかかわらず、約30名のご参会を頂きました。

様似、七飯、函館、余市など遠路にもかかわらず、ホームページを見て申し込み頂いた方々もいらっしやり、嬉しい限りでした。お二人の講師の先生をお招きして、『楽しい、おもしろい！どの子どもでも楽しめる表現活動』というテーマで行われた講習会は、身体を動かしながらの楽しく活気あるひとときとなりました。

ご参会頂いた皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



講座1 「動いて音楽を楽しもう！」～特別支援の授業を通して

講師 井上 志帆先生（北海道札幌養護学校 教諭）

「1時間の授業の中で、一人一人の子どもが少しでも自発的に参加できるようにしたい！」この願いを常にお持ちの先生らしさが全面に出ている講座でした。ケロボンズの曲に合わせた手遊びは、頭が固くなってしまった(?)大人の私たちにも分かりやすく、いつの間にかその曲にのせられ、不思議と体を動かさずにはいられなくなっていくのです。支援を要する子どもたちにも、「何をしたらよいのか。」ということをはっきりさせ、自ら行動していく力を身につけさせることは大事なことです。そのことを『特別支援の音楽授業』を通して改めて感じさせられた講座内容でした。

講座1 アンケートから

- ・比較的取り組みやすい内容で、すぐに教室で使えそうなのがよかった。パネルシアターはとても面白く、言葉とリズムを合わせるのもいいなあと思った。
- ・3学期の音楽で取り入れたい内容ばかりでした。リズム打ちやボディーパーカッションは自分の学級でもやっていたので、研修で学んだことをアレンジしながら取り組んでいきたいと思えます。
- ・幼稚園でもやはり「心や体で感じて分かる」ということを大切に考えており、共通する点がたくさんありました。

講座2 「これは面白い！『早口言葉』で音楽をつくろう」

講師 高倉 弘光先生（筑波大学附属小学校 教諭）

毎回おなじみの高倉先生の講座ですが、今回は『早口言葉』を使っての音楽づくりです。「えっ？どうやって？」というのが皆様もタイトルを見て最初に思ったことではないでしょうか。「生麦、生米、生卵」「かえるびよこびよこ・・・」など、よく唱えられる早口言葉が見事に音楽になっていく様は見事なものでした。講座の最後にはグループごとの発表会をしましたが、参会者の方々のムーブメントに対する意欲的な関わりが素晴らしく、先生からもお褒めの言葉を頂いたぐらいです。「リレー・まねっこ・重ねる・カノン」などの方法によって、音楽づくりは何倍も楽しく、そして、豊かになっていくのです。ぜひ、これからの実践に生かしていきたい講座内容でした。



講座2 アンケートから

- ・とっても楽しく、子どもたちにもこのような体験をたくさんさせてあげたいと思いました。音楽だけでなくすべての教育活動につながるお話が聞けました。ありがとうございました。
- ・「音楽をつくる」ことは難しいのでは…と聞いていたのですが、こんなに楽しくできることが発見できました。
- ・楽器がなくてもリズム遊びの楽しさを感じることができました。自分は音楽があまり得意ではないのですが、早口言葉や手拍子で音楽は作れるのだと知り、実践していきたいです。

眞鍋なな子先生との出会い

研究部 高倉弘光

知っての通り、音楽科の学習には、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」の4つの分野がある。音楽専科の先生でも、おそらく教えるのが得意な分野、不得意な分野というものがあるのではないだろうか。かく言う私は、音楽づくりと鑑賞が得意、というか、好きである。歌唱はまるでダメである。

それに乗じてか、歌唱の授業に対する素朴な疑問ももつことも少なくなかった。「なぜ、日本人なのに西洋式の発声を中心に指導するのだろうか、あるいは西洋式の曲を多く扱うのか」とか、「どこまで歌唱表現を突き詰めれば良しとするのか」とか、「授業で行う歌唱指導と、合唱部でやる歌唱指導の違いは何なのか?」「学級担任の先生は、どこまで歌の指導ができるのだろうか。結局のところ、歌の世界を経験してきた先生にはかなわないのか」などなど、次々に疑問が湧いてきた。

これらの疑問は「王様の耳はロバの耳」と同様、なかなか人には言えない、聞けないものだ。音楽教育の世界に棲んでいればなおさらのこと。だから御多分に洩れず、私もこの問題にはアンタッチャブルで過ごしてきた、というのが正直なところである。

ところが、数年前のある日、日本教育新聞の記事に目が留まった。ある学校の研究を紹介する記事だった。その学校の研究部長の名前に見覚えがある。「眞鍋なな子」と書いてある。眞鍋先生は、音楽教育界では超有名で、NHK コンクールなど、合唱指導で素晴らしい実績を上げていらっしゃる。歌唱の世界に疎い私でも知っていた。記事を読んでハッとした。確か「思考力と言語活動」を核とした研究内容だったように記憶している。その確かな研究の構築力、文章力、授業での実際の子どもの姿から論を立ち上げる力に圧倒された。しかも、その授業の例としてあげられていたのが音楽科の授業が中心だった。

「すごい！ 眞鍋先生って、音楽だけじゃなくて、音楽の授業を通して子どもにどんな汎用的な資質や能力（例えば思考力や判断力、知識…、学びに向かう力、人間性など）を育てようとしているのかを明快におもちの先生だ!」「視野が広い!」「しかもそれを音楽の授業を通して実現できている!」

偶然、その後ある講習会で眞鍋先生とご一緒する機会があり、声をかけさせてもらった。意気投合するのに時間はかからなかった。その後、眞鍋先生と電話で色々な意見交換をしたり、眞鍋先生の地元（町田市）に出向いて私が授業をさせていただいたり、眞鍋先生がわざわざ本校の研究会に来てくださったりと、交流が続いている。

今回、札幌にお呼びできたことは大変に嬉しいことである。先生にとっても初来道だそう。歌唱指導、合唱指導は、音楽の専門の人だけではなく、学級担任にもできるもの。担任だからこそやるべきことがある。歌唱指導を通して、どんな子どもを育てるべきなのか、広い視野でたっぷり語ってくださることだろう。目指す子ども像は、本会の目指すところと軌を一にしているのだ。

音楽を窓口にして、いま日本の子どもに必要な資質や能力を育てる。大事な視点である。8月11日、担任の先生にも是非是非お集まりいただきたい。
(たかくら・ひろみつ 筑波大学附属小学校)

北海道ムーブメント教育研究会

平成29年度・事務局体制

会長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)
事務局 (総務)	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
事務局 (研究)	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
事務局 (会計)	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
研究担当	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立伏見小学校)
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)
	石田 晃大 (札幌市立もみじの丘小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)
会計担当	三上 恵 (岩見沢市立南小学校)
	千葉 伊織 (札幌市立札幌緑小学校)
	西 祐子

広報担当	織田 暁知 (ニューヨーク日本人学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似北小学校)
	中村 真紀 (函館市立湯川小学校)
	井上 志帆 (北海道札幌養護学校)
	稲船 志津子 (江差町立南ヶ丘小学校)
会計監査	西 宏 (札幌市立篠路小学校 教頭)
常任顧問	堀田 吉宏 (札幌市立伏見中学校)
	亀山 比佐 (北翔大学・大学院)

かかわりかたスキルアップ！～ソーシャルスキルってなあに？～

北翔大学大学院 亀山 比佐

この数年間で、普通学級に在籍する発達障がいや発達障がいが疑われる子ども達が増えてきている。多くの学級に自閉症スペクトラム症候群と判定された児童が在籍し、また、発達障がいと疑われるものの、医療機関で判定されずに相談施設に行っている児童が在籍する。そこで、自閉症スペクトラム児童の様子について、ソーシャルスキルをフィルターにしてその行動の特性を明らかにしていこうと考えた。

藤野博氏は、「自閉症スペクトラムでは、3つの種類の障害があるとされている。①は社会性の障がい、②はコミュニケーションの障がい、③は想像力の障がいである。これが3つ組み合わさって現れる。」としている。そして、その社会性の障がいを説明し、「ソーシャルスキルの乏しさ」をあげている。

ソーシャルスキルは、大きく二つに分けられる。一つは言語を介さない「非言語的ソーシャルスキル」で、もう一つは、言葉を介した「言語的ソーシャルスキル」である。また、河野茂雄氏は、小学生のソーシャルスキルのカテゴリーを「配慮のスキル」と「かかわりのスキル」に分けている。

そこで、私は面接参考資料として、hyper-QU、園城寺式・乳幼児分析的発達検査表、MEPA-IIを使用して、例として挙げるA、B、Cの学習や生活の様子の見取りをまとめてみた。

I. 非言語的ソーシャルスキル

(1) 学習のルール

項 目	A	B	C
・学習の始まりと終わりの挨拶を言うことができる。	×	×	○
・先生や友だちの話を最後まで聞くことができる。	×	×	○
・必要な学習用具を整頓しておく。	△	○	○
・学習に使わないものはしまっておける。	×	△	○
・必要なときに鉛筆や消しゴムをもつ。	×	×	○
・正しく鉛筆を持って、遅れずに書く。	×	○	○
・丁寧な文字で正しく板書する。	△	○	○

担任されている子ども達の様子を見取り、上記の表に当てはめてみていただくと、どのような特徴が見えてくるだろうか？以下、(2) 集団生活のマナー、(3) 基本的な生活習慣、(4) 運動、(5) 社会性、(6) 音楽表現と学級における児童の生活や学習の困り感を洗い出し、項目を起こして記入してみた。

新・事務局員の声



今年度から事務局に入りました千葉伊織です。日々の生活の中の、「ちょっとほっとするもの」だったり、みんなで力を合わせて「作り上げるもの」だったり、音楽のもつ力は大きいなあと思います。

今年は、持ち上がりの四年生を担当しています。去年は、休み時間に汗まみれになりながら踊りを楽しんでいた子どもたちでした。学習発表会でも踊りをメインにした発表をし、ひたすら踊ることを楽しみました。音楽に合わせてみんなで踊る時間は、子どもたちにとって楽しくて、ほっとする時間でした。

そんな子どもたちと迎えた今年の運動会。今年から始まった三、四年生合同で行う表現。音楽に合わせてなわとびをとぶことに挑戦しました。「表現＝魅せる」ということで、楽しいとは違う音楽。一発本番というプレッシャーもあります。休み時間も、自由に遊びたい気持ちを我慢して練習を重ねました。みんなで作り上げるために心をひとつにしました。そうして迎えた本番。大成功で幕を閉じ、子どもたちの中には、満足感や達成感が生まれました。

これからムーブメントについてたくさん学び、子どもたちと毎日をもっと楽しみたいです。



「小グループでの歌遊び」

やってみませんかコーナー NO.16

身体を動かして楽しむ遊びの1つに、音が鳴った数だけの友達とグループを作り、そのグループで歌遊びや表現を楽しむ『ナンバーコール(私はこう言っています)』があります。「できるだけ速く近くの友達(選ばずに誰とでも)と…」とスピード感を楽しんだり、友達関係の広がりにつなげたりすれば、と考え活動してきました。ですが、友達へのこだわりや瞬時に折り合いをつけられず、結果、グループでの遊びまでに毎回時間がかかってしまうことが多くなってきていました。そこで、最初にできたグループのメンバーを覚えておき、「今日はこの友達と集まる！」というようにしてみました。メンバーが決まっていることにより、うまく友達を見つけられない子も安心でき、更には、夢中になって友達を探すために呼び合う声が自然に大きくなって、グループで楽しむ時間も多くなりました。そして、メンバーが同じことで前とは違う表現のアイデアを考えたり、発展させたりということもできるようになりました。

私(幼稚園)は2人～5人位で「幸せなら手をたたこう」「あたま・かた・ひざ・ポン」「BINGO」・・・など年齢に合わせて楽しんでいます。
竹内 倫子(札幌ゆたか幼稚園)

【研修会のご案内】子どもと創る、を考える会 ～わたしたちの教室からつながるヒト・モノ・コト～

2017年9月2日(土) 9:15～17:00 (受付9:00～)

会場：長沼町立南長沼小学校(夕張郡長沼町東5線南7番地) 参加費：3500円

講師：高橋 和子先生 (横浜国立大学教育学部教授)

宇野 弘恵先生 (旭川市立啓明小学校教諭)

申し込み：kokucheese.com からお願いします。

平成29年度 夏季講習会開催要項

1. テーマ 「子どもが輝く 歌の授業！～歌いたい！心と身体が動き出す～」
2. 日時 平成29年8月11日(金・祝) 13:00～
3. 場所 札幌市立月寒東小学校
〒062-0053 札幌市豊平区月寒東3条10丁目1-1
TEL: 011-851-7924
(札幌市営地下鉄・東豊線「月寒中央駅」より徒歩15分)
4. 日程

12:30～	受付
12:55～	開会式
13:00～ (途中休憩あり)	講座「子どもが輝く 歌の授業！」 講師：眞鍋なな子先生(町田市立鶴川第二小学校 主任教諭) (公開指導のモデル児童：札幌市立月寒東小学校 合唱団)
15:50～	閉会式
5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会
事務局 札幌市立栄町小学校内(細貝)
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL: 011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会(申請中)
7. 参加費 一般3000円、会員・学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜光規まで FAX 011-851-1619
ホームページからも、申込みができます。

<http://hokkaido-movement.jimdo.com/> 「北海道ムーブメント教育研究会」で検索